二世豊竹古靱大夫床年譜（九）

（轉載不許）

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
大正五年九月七日初日（二日間）	竹本越路大夫一座　米澤　米澤座	古靱大夫、清六參加	
九月十日初日（四日間）	仙臺　仙臺座		
九月十七日初日（五日間）	金澤　福助座		
十月一日初日（二十二日間）	文樂座 前　木下蔭狹間合戰　大序より竹中紫之段迄 中　戀飛脚大和往來　新口村之段 切　卅三間堂棟由來　平太郎住家之段より敵討之段迄	役場（初役）壬生村之段切 三味線　三世鶴澤清六 此役にて三段目語となる	十月二十一日、吉田多爲藏（本名青木稱次郎朗藏居士）殁す、法名本醫行年五十三。吉田金四の門人にして幼名を金之助と稱し、後改名して多爲藏となる、近代の名人なり。
十月卅一日初日（二十八日間）	同座 前　加賀見山舊錄繪　大序より七ツ目之段迄 中　攝州合邦辻　合邦住家之段 次　碁太平記白石噺　新吉原揚屋之段 切　桂川連理柵　六角堂之段より道行之段迄	役場（初役）鳥井又助住家之段切 三味線　三世鶴澤清六	竹本南部大夫病氣全快久々出座。
十二月一日初日（十日間）	竹本越路大夫一座　東京　歌舞伎座	古靱大夫、清六參加	十一月七日、二世豊澤廣左衛門（本名豊澤榮三郎）京都にて殁す、法名豊譽無涯梁廣居士、行年八十。通稱河原町と稱す。 是にて冬休

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
十二月十三日初日（七日間）	岡山　千歳座		
十二月二十日初日（五日間）	神戸新開地　神戸劇場		
大正六年（四十歳）一月二日初日（二十九日間）	文樂座 前　一谷嫩軍記、熊谷陣屋之段 中　近頃河原の達引　四條河原之段より堀川之段迄 大序より 中　鳴山古蹟松　中將姫雪責之段 切　壇浦兜軍記　琴責之段	古靱大夫、源大夫、淀大夫外 役場（二度目）はやし住家之段切 三味線　三世鶴澤清六 （初役）琴責之段 掛合　岩永左衛門 三味線　野澤吉三郎	本興行より鶴澤綱造退座、番附面より除く。 吉田駒十郎退座。 竹本南部大夫再び病氣の爲め豐竹駒大夫代役。
二月八日初日（二十四日間）	同　座 前　繪本太功記　大序より尼ケ崎之段迄 才三勘當之段より白木屋之段迄 中　戀娘昔八丈　葛の葉子別より亂菊之段迄 切　芦屋道滿大内鑑	役場（初役）葛の葉子別切 奥　亂菊之段 三味線　三世鶴澤清六 ツレ　德太郎 燕友　四造 友平 若友 本年は初世豐竹古靱大夫後、四十年に相當し且つ二月廿四日は祥月命日なれば、同師追福の爲めに葛の葉子別を語りしものにて、命日當日には入場者に對し供養を呈せり。	兵内、九世野澤吉五郎と改名す 五世鶴澤才治退座。

三月十五日初日（二十五日間）

前　彦山權現誓助劍　大序より毛谷村之段迄
切　心中天の網島　北新地より道行之段迄

同　座

役場（初役）紙治内之段中三味線三世鶴澤清六見た近松翁作品の原作通り上演をたるは本興行の「心中天の網島」を以て第三回目なり。本興行は松竹の打上げ後古靱大夫は諒解を得て、巡業の爲め暫時休座す。

竹本南部大夫病氣全快、出勤す

五月一日初日

地方巡業

名古屋　末廣座
瀬戸　榮座
岡崎　金升座
濱松　濱松座
豊橋　豊橋座
静岡　千鳥座
横須賀　歌舞伎座
東京　有樂座
横濱　横濱座
甲府　巴座
松本　松本座
大垣　寶福座
金澤　福助座
高岡　壽座
富山　旭亭
伊勢山田　新明座
伊勢松阪　神樂座
伊勢津　曙座

一行
古靱大夫、清六、錣大夫、静大夫、英大夫、德大夫、清大夫、明石大夫、辰大夫、芳大夫、之助、廣太郎、清吉、清二郎、清、一外に阪本造、新島、豊手代、岡崎興行中、三州矢作橋より二三丁、誓願寺に詰ず。境内に淨瑠璃姫弘淨瑠璃、本性院、墓あり、醫誓法女、壽永二癸卯三月十二日

一行歸阪す

八月九日

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
九月六日 九月十日	滿洲並ニ朝鮮巡業	古靱大夫、合三味線三世鳴澤清六と時秋別の餘儀なきに至る。明治四十二年六月、清六を合三味線に迎へて以來八ケ年藝道の鞭の下滿腔の信賴を以て師事したるも日本一の藝の持ち主たる清六にも高慢無禮の所作多く、遂に堪え難きことありて、遂に離別す。 ハルビン丸ニテ一行渡滿す。 大連着。	
九月十一日初日（十日間）	大連　歌舞伎座		
九月廿二日初日（十日間）	旅順　八島座		
九月廿七日	營口　營口座		
十月一日初日（十日間）	奉天　彌生座		
十月三日初日（十日間）	撫順　公會堂		
十月七日初日（十日間）	安東縣　京橋座		
十月十日初日（五日間） 十月十五日 十月十七日初日（三日間） 十月廿日初日（三日間）	京城　壽館 仁川　歌舞伎座 木浦　常盤座 大田　大田座	一行、古靱大夫、濱大夫、靜大夫、八大夫、明石大夫、辰大夫、德大夫、吉彌、德太郎、芳之助、清二郎、八造、頭取中村仙助。 本巡業中、古靱大夫の合三味線は八世野澤吉彌勤む。 十月九日京城着ス同日攝津大掾師死去の電報入手、直に弔電を打つ	文樂座十月興行、長子大夫改め六世竹本彌大夫入座出勤す。 十月九日、竹本攝津大掾（本名二見金一）歿す。法名攝津春曉院殿越峰翁居士、行年八十二。初め鶴澤龜次郎名乘る三味線彈なりしも、五世竹春大夫の門に入り、大夫に轉じて初世竹本南部大夫を名乘る。後三十五年九月小松宮彰仁親王殿下より竹本世越路大夫を襲名、明治三十二年一月一日攝津大掾を賜り、翌年一月相續後直ちに攝津大掾を受領　大正二年
			十月廿四日引退す。初世豊澤小團二（本名井上槌太郎）歿す。法名釋義應、行年六十五。